

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年6月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874000219		
法人名	社会福祉法人 青洲会		
事業所名	グループホーム どんぐり荘	ユニット名	どんちゃん家
所在地	〒300-2302 茨城県つくばみらい市狸穴1072-46		
自己評価作成日	平成22年11月23日	評価結果 市町村受理日	平成23年6月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年1月26日	評価確定日	平成23年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者いつまでも自分らしく、自立した生活が送れるような支援を目指している。 日々の生活の中で、それぞれが役割を持ち、助け合い、家族のように過ごし、楽しみや生きがいを持って暮らせる環境作りに力を入れている。 学童の導入、動物の飼育、畑作業、様々なプログラムを実施し、認知症の予防、自立支援に努めている。 また、地域密着型として、近隣商店、理美容室の利用、清掃活動等の取り組みも行い、地域に根ざしたホームを目指している。 地域貢献として無料の家族介護者教室も行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は利用者本位のサービス提供を第一に考え、利用者自身が選択し決定ができるように支援し、職員は利用者を昔の風習や生活の知恵などを教えてもらえる存在として捉え、尊敬の念を忘れないよう意識して支援している。 利用者がいつまでも自分の足で歩けるよう、時間がかかっても見守る支援を優先しているため、生活のあらゆる場面に利用者が係わり、生き活きと賑やかで家庭的な雰囲気となっている。 重度化や終末期の対応は、医療関係者や家族等と協力して、できるだけ利用者の思いや希望にそった最期が迎えられよう支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がBS法やKJ法を用いて理念づくりを行った。玄関へ掲示し、ご家族やお客様にも目を通して頂けるようにしている。職員は名札の裏に理念を挟み込み、いつでも確認できる様に工夫し、意識付けや共有をしている。	理念はユニット毎に管理者と職員が話し合い作成したもので、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっている。 理念を各ユニットの玄関に掲示するとともに、職員の名札の裏に記載して意識付けを図り、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店や美容室を利用し、つながりを持つように心掛けている。自治会や隣の保育所の行事への参加、飼育中のうさぎを中庭に放し、園児との交流も行っている。又、頻度は少ないが、独自に近隣のゴミ拾いを挨拶運動を兼ねて実施している。	事業所は餅つきや祭り等の自治会行事や隣接する保育園行事への参加、中学生の体験学習、踊りやオカリナ演奏のボランティアを受け入れ、利用者が地域の人々と日常的に交流ができるよう支援している。 事業所で介護教室やAEDの講習会を開催し、地域の人々に参加を募るなど、地域貢献に寄与している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	無料の認知症介護者教室を計3回を1クールで前期、後期に別け、実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の目安で開催し、ホームでの取り組みを資料、写真付きの広報誌等で報告をしている。参加者から意見や助言を頂き、評価表の記入もお願いしている。現場への伝達を行い、改善や新しい取り組みに繋げている。	利用者の家族等に事業所の取り組みに理解が得られるよう、順番に運営推進会議の参加協力を依頼している。 会議では、事業所から利用者の生活の様子や運営状況の報告などを行うとともに、出席者間で意見交換をしているほか、毎回委員に無記名式のチェックシートで事業所の評価を実施している。 会議で出た意見や助言は職員会議で報告し検討するとともに、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な運営会議の開催、電話での情報交換を行っている。又、職員数名が市のキャラバンメイトに登録し、認知症サポーター養成講座を担当している。	市担当者に制度や設置基準について電話や訪問で相談したり、市内のグループホーム連絡会で情報交換するなど交流を図っている。 職員を認知症サポーター養成講座の講師として登録しており、市と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の指針に基づき、身体拘束を行わないケアに全体で取り組んでいる。夜間は防犯の為、玄関の施錠を行っているが、日中は玄関、中庭を開放し自由に外に出られる様になっている。	身体拘束をしないことを契約書に明記するとともに、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 利用者の外出を察知した場合は職員が同行するなど、利用者の意思を尊重する支援をしている。 身体拘束の実績はないが、やむを得ず身体拘束をした場合の書類一式を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会や外部の研修を通して知識の習得に努めている。入浴時の身体状況のチェックも含め、虐待が見逃される事が無いように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修会に参加。定期的に学ぶ機会を設け、必要時に適切な支援が出来るようにしたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は書面を用いて説明を行い、不安や疑問点を解消できる様にしている。入院の際の説明も行い、サインをいただいている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや面会時、運営推進会議等で意見や質問を頂けるようにしている。家族も参加の行事の際にも、無記名でアンケートを依頼し、改善等に活用している。外部機関は契約時の説明や玄関に掲示をしている。	利用者からは日常のふれ合いの中で、家族等からは来訪時に意見や要望を聴くよう努めるほか、無記名のアンケートを実施している。 出た意見等は職員会議等で話し合い、運営に反映させている。 苦情相談受付窓口を玄関に掲示するとともに、重要事項説明書に明記して家族等に説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員で定期面接を年に2回実施。定例会議等でも意見を聞く機会として活用している。	管理者は職員が意見や提案を出し易い人間関係を築いているほか、半年に1回面接を行い、職員の意見等を十分に聞くよう努めている。 出た意見等は利用者の支援や運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、管理者と職員とで定期面接を行っている。目標を話し合いの上で設定し、達成に向けたアドバイス、取り組み後の評価を行っている。チャレンジする事、達成感を味わうことでやりがいや向上心につながるようにしている。その際に、悩みや人間関係の相談にもものっている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間のスケジュールをたて、勉強会を実施している。同様の内容を2回に分け、勤務やそれぞれの都合に合わせて参加しやすいように設定している。外部に講師の依頼するケースもあるが、職員が講師を担当する仕組みになっており、教える立場から、より深い知識を習得するきっかけにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加している。サービスの質の向上、平準化、協働体制の構築を目的に、月1回程度の会合、事例検討会、症例発表等を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にそれまでの暮らしや嗜好等、出来る限りの情報を収集、要望も聞き、本人の望む暮らしをホームでも実現できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階から家族や意見や要望を十分に聞く時間を設けている。入所間もない時期は密に連絡や相談をすることで安心して頂けるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で、十分な検討を行い、場合によっては併設のサービスや居宅介護支援事業所に相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前の情報を元に支援を行い、可能な事は依頼し、役割を持って頂く。職員や学童の子供たちが入居者ののに学ぶことも多く、互いに支え合う関係を意識しながら支援をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴や嗜好の情報収集を行いながら、家族の思い、アドバイスを聞き、日々の生活に活かすようにしている。定期的な面会、外出等もお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内の在宅サービスをご利用の友人との面会や定期的に自宅の様子を見に帰る等の支援を行い、地域との関係が途切れないように支援している。	管理者は利用前に自宅を訪問し、利用者の生活の様子を確認したうえで話を聴き、これまでの生活が継続できるように支援をしている。 職員は近隣の美容室や理髪店の利用、家族や友人との手紙や電話のやり取り、空き家になっている自宅への同行などを支援し、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格や社会性をふまえ、入居者同士の活動の組み合わせや、食事の席等を工夫している。活動を通じて自然に会話が生まれるように職員も間に入り支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の身体の状況等で、ホームでの生活が困難となり、家族の希望があった場合は、関連施設との連携を図り、入所相談、連絡調整等の援助をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の個々の生活リズム、生活歴、望む暮らしを把握し、接するように努めている。自己決定や、簡単に選択が出来るように声掛けにも工夫している。	それぞれの利用者には担当職員がおり、日々の係わりの中から得た情報を記録し、職員で共有している。 職員は利用者との会話や表情などから、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 農作業や植木の手入れ、花の水やり、うさぎの世話など、利用者が自主的に役割をもち、好きな場所で好きなことをして過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、情報収集やアセスメントを行っている。本人の思いを把握し、日々の支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、入居者の出来る事、出来ない事を見極めている。又、活動の際の見守り、援助、記録を通して個々の把握に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望む暮らしや思いを尊重し、家族も交えながら話し合いを行い、検討した上で介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ6ヶ月毎に見直すほか、新たな課題や心身の状況に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直し、家族等の確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録の他に、職員間で情報の共有の為に、連絡ノートを活用している。気づいた事や提案等も記載し、ケアの内容や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内の在宅サービスと協力し、逆ディを実施している。又、ターミナルケアでは家族の希望に応じて面会や宿泊にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議は民生委員の方に毎回参加して頂いている。自治会長にも参加を依頼しているが、仕事があり調整が難しいとの事で会議内容の報告、行事告知の協力等で連携を図っている。地域行事への参加、近隣の商店や理美容室の活用を行い入居者の顔や症状の理解、安全に暮らせる協力を呼び掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の主治医の確認を行い、希望があった方は、協力医療機関クリニックの往診に切り替え、主治医の変更を行っている。眼科や皮膚科、往診以外等の対応は緊急時を除き、家族と連携しながら対応していただいている。	協力医療機関の訪問診療を受診できる体制となっているほか、利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。 受診結果はその都度家族等へ報告している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は日常の健康管理等の業務はもちろん、介護現場でも入居者、職員との関係づくりに努め、医療面での助言、指導も行っている。又、不定期ではあるが、職員からの要望や、不安を感じている点、感染症の時期に合わせ、勉強会、伝達会を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の希望も確認しながら、病院との連携を図っている。看護師や介護士が病院のムンテラに家族と共に参加し、治療経過や注意事項等の説明を聞き、受け入れ体制を整えている。又、定期的な往診の際にも情報交換を行い連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のカンファレンスの際に、重度化の場合や終末期のホームでの看取りの方針を説明し、本人、家族の意見や希望を確認している。ホームの職員はもちろん、医師や看護師、併設事業所、地域も含めた全体で関わられるように支援している。	事業所では「重度化対応の指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ている。 主治医が「終末期である」と判断した時点で、より具体的な「看取り介護の指針」を家族等に提示し、同意が得られれば看取り介護を実施している。 運営者や管理者は利用者の意思を尊重するとともに、終末期における家族等の係わり方や職員の不安の軽減などにも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを元に、急変や事故発生時に適切で迅速な対応が出来るように心掛けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を実施している。その都度消防署の方から評価をいただき、改善に努めている。毎回、家族や近隣の方への告知を行い参加を促しているが、参加数の増加が今後の課題である。	年2回、昼間や夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、反省点などを記録して次の訓練に活かしている。 数日間分の食糧や飲料水などを備蓄している。 地域の人々に避難訓練への協力を呼びかけているが、参加を得るまでには至っていない。	災害時に協力が得られるよう近隣住民に避難訓練への参加を更に働きかけ、近隣住民と共に避難誘導の現地訓練をすることが望まれる。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時には、接遇や高齢者の対応を学ぶ機会をグループ全体の研修会等で行っている。又、個人情報の取り扱いについて説明し、同意書も作成している。	管理者や職員は利用者に対する呼び名や言葉遣いなどに気を配り、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考え支援している。 個人ファイルは鍵のかかるロッカーに保管するとともに、個人情報を使用する場合は家族等に利用目的を提示したうえで同意を得るなど、個人情報の漏洩や利用に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式を活用したアセスメントの情報を把握した上で支援をしている。又、自己決定が出来るように、本人が選択しやすいように工夫し、声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式を活用したアセスメントの情報を把握した上で支援をしている。希望が上手く伝えられない入居者に対しても、アセスメント、日々の情報交換、家族への聞き取り等を行い支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな物や馴染みの衣類を選ぶ事が難しい方は、職員と一緒に確認をしながら、選択している。近隣の理美容室にも通い、お洒落や身だしなみ等が楽しめるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物にも参加し、その日の食材で献立を一緒に考えるようにしている。調理、盛り付け、配膳、後片付けもそれぞれの入居者が能力に合わせて分担している。	利用者は職員と共に食事の献立を考えたり、食材の買い出しや調理の下準備、配膳、下膳など、できる範囲でしている。 バイキング形式の食事や弁当を持って花見に行くなど、利用者が楽しく食事ができるよう支援している。 職員は利用者と同じテーブルを囲んで和やかに会話をしながら、同じ食事をし	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下等が見られる時は、チェック表を用いて栄養のバランス、体調不良の早期発見、脱水の予防等に配慮している。水分量もその都度記入し、把握に努めている。本人の嗜好品を取り入れる等の工夫も家族とも相談しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した入居者は本人に任せて、見守り、声掛けを行っている。夕食後、歯磨きを促し、義歯の方は洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。必要に応じて訪問歯科等の対応も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	以前は、入居間もない方、体調不良の方等、期間的に排泄パターンの把握の為、チェックを行っていた。現在は、全ての入居者の方を対象に自立又は誘導の対応や失禁の有無等がわかるようにチェックを行っている。排便についても日数の確認を行いコントロールをしている。	職員は利用者の生活リズムや排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間の場合も声かけをして誘導したり、ポータブルトイレを使用するなど、なるべくおむつを使用しない支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の使用をなるべく行わない様に乳製品（牛乳やヨーグルト等）の摂取、散歩等も行い自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間や曜日を設定せずに、基本的には本人の希望に応じた時間での対応を心掛けている。併設サービスの大浴場への入浴等も行っている。	利用者の希望にそっていつでも入浴ができるよう支援するほか、柚子や入浴剤などを利用したり、隣接する通所介護事業所の大浴場を利用して、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。 入浴を拒む利用者には強要せず、時間をおいてから再度誘ったり、声をかける職員を替えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共同生活でのストレスに配慮し、自室で過ごす時間やアコーディオン仕切れる畳で休む時間をもうけられるように支援している。夜間、なかなか寝付けない方には、お茶を入れお話をしたり、添い寝をする等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用が理解できるように、看護師が薬剤に関する資料を作成。又、薬情を冷蔵庫の横に掲示し、いつでも確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用したアセスメントを元に本人の希望を尊重し、楽しみや生きがい、役割を見つけられるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスや中庭は自由に出られるようになっている。又、個々の希望（併設のサービスに行く、自宅に行く、買い物に行く等）に対応している。家族と共に行う行事を開催しているが、外出できる機会も多くしていきたい。	利用者は天気の良い日には事業所周辺を散歩することが日課となっており、その際に保育園児や地域の人々と交流を図るほか、買い物には職員が同行し支援をしている。 法人のワゴン車を利用して、神社や公園で花見や散策をするなど、利用者の希望にそった外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理が難しい方は基本的にホームが管理をしている。買い物や外出等では支払いを一緒に行い、金銭感覚を失わないように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の返事は本人が出せるように可能な限り支援をしている。家族からの電話には本人もつなぎ、連絡を希望する時も本人がかけられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みに近い家具や小物を配置している。光の調整はすだれを活用。入所者が使いやすく、混乱しないような環境に配慮している。	リビングはテーブルが置いてあるフロアリング部分とこたつが置いてある畳敷きの部分に分かれており、利用者が好きな場所、好きな姿勢で寛げるよう配慮されている。 リビングの掃き出し部にウッドデッキが設置され、それに続いている中庭を通って同一法人の他施設に自由に入出りができ、そこの利用者とも交流ができる開放的な造りとなっている。 トイレへの誘導矢印やカレンダーなどが大きな文字で見易く掲示されているほか、流し台なども利用者が使い易いよう工夫されており、安全に配慮した居心地よい空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間の空間は、食事や作業をする場所、リラクセスできる場所を別けている。必要に応じてアコーディオンで仕切れることもできる。中庭やデッキにもソファを設置し自由に居場所が選択できる様にしている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に馴染みの家具、使い慣れたものを持参して頂けるように、説明、依頼をしている。家族も希望があれば居室に宿泊ができるようになっている。	居室の入り口には利用者と担当職員で作った名札がかけられている。 居室はフローリングと畳の部屋があり、利用者の希望にそってベッドや布団を持ち込むことができる。 利用者はテレビやラジオ、鏡台、家族の写真、電気毛布など馴染みの物品を持ち込み、家族等と協力して利用前の自室のように暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てをバリアフリーにせず、適度な段差を付けている。流し台も昔からあるタイプのものを設置して、自分で出来るように工夫をしている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム どんぐり荘

作成日 平成23年6月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に協力が得られるよう近隣住民に避難訓練への参加を更に働きかけ、近隣住民と共に避難誘導の实地訓練をする。	避難訓練へ多くの地域住民が参加できるような体制を整える。	災害時に向けての炊き出しのシュミレーション、防災体験、消火訓練、避難訓練など地域の人々も参加できるように工夫をし、今後も地域の人々に声かけを行いながら、地域住民の参加増大に努める。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。